

当社初の海外制度先進国における CCS 事業検討案件へ参入

～米ワイオミング州南西部の鉱区を保有する BSO 社へ資本参加～

石油資源開発株式会社（JAPEX、本社：東京都千代田区、代表取締役社長：藤田 昌宏、以下「当社」）は、アメリカ合衆国ワイオミング州南西部に位置するドライパイニー地区で CCS（Carbon dioxide Capture and Storage：二酸化炭素(CO₂)の回収・貯留）を含む開発事業（以下「本事業」）の検討を進めている Blue Spruce Operating LLC（本社：アメリカ・ワイオミング州パインデル、以下「BSO 社」）と、当社在外連結子会社である Japex (U.S.) Corp. (JUS) を通じた同社への資本参加（BSO 社への出資手続き完了後は、当社の持分法適用関連会社となる予定）について合意し、BSO 社と同社新規発行持分の取得契約を JUS にて締結しましたので、お知らせいたします。

BSO 社は、石油・天然ガスなどの開發生産に携わるアメリカの企業で、現在は同社が保有する鉱区を開発し、生産するガスから天然ガス、ヘリウムおよび CO₂ を分離回収し、天然ガスとヘリウムを販売、ならびに CO₂ については CCS を実施することを想定した本事業の検討に取り組んでいます。BSO 社によるこれまでのプラント設計に関する知見と、本事業への長期にわたる関与を活かして、BSO 社と当社および JUS は、最終投資決定（FID）を目指して検討を進めていきます。また、BSO 社は既に地上インフラ設備の建設に必要な土地を確保していることから、販売物の市場アクセスやインフラ設備の規模の最適化を図れる見込みです。

本事業はワイオミング州ラバージュに位置しており、世界的な規模の CO₂ 回収による低炭素の天然ガスとヘリウムが長年にわたり安定的に生産されている鉱区に隣接し、事業構造的にも類似しています。生産過程で生じる CO₂ を永続的に貯留することで、環境負荷の少ない方法での天然ガスとヘリウムの供給に大きく貢献することを目指しています。

当社は石油・天然ガス開発や CCS の知見を活かし、本事業におけるガス埋蔵量・CO₂ 貯留可能量評価や、生産井・圧入井、生産施設やパイプラインの設計を含む技術面の検討、ならびに販売戦略を含むビジネス面の検討に携わっていきます。また、アメリカの民間ヘリウム生産会社で、北米におけるヘリウム開発・生産のパイオニアである Weil Group Resources, LLC（本社：アメリカ・ヴァージニア州リッチモンド）と提携し、同社の知見を本事業に活かします。

当社は、2050 年までの当社の方向性をとりまとめた「JAPEX2050」において CCS を当社のカーボンニュートラル社会実現への貢献項目の一つに位置付けるとともに、2030 年までを対象期間とする「JAPEX 経営計画 2022-2030」において、2030 年までの国内における CO₂ 圧入の実現と、早期の収益貢献と知見蓄積のための海外の制度先進国における CCS 商業案件への参入を目指すことを掲げています。この度の資本参加は、これらの方針を踏まえた、当社初の海外先進地域における商業化に向けた CCS 案件への参入となります。

国内外におけるカーボンニュートラル社会実現を目指した課題の解決や事業の実現により、時代に合ったさまざまなエネルギーを供給する「総合エネルギー企業」としての成長と企業価値のさらなる向上を引き続き目指してまいります。

以上

###